

おおた教育振興プラン

学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させる。

学校の教育目標

- 元 気 な 子 ○考 え る 子
- が ん ば る 子 ○ や さ し い 子

保護者・地域

家庭・地域の実態
保護者・地域の期待や願い

学校経営方針(学力向上にかかわる要点)

○授業改善推進プランの実施を徹底し、基礎的・基本的な学習内容を確実に習得し、活用能力を高める。

各教科の指導の重点

- 基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。
- 体験的・問題解決的な学習を重視するなど、学習指導方法の工夫・改善に努める。

基礎基本の定着

- ・朝学習・補習教室を週計画で位置付ける
- ・家庭学習の励行 ・音読は毎日の宿題

基本的な生活習慣の定着

- ・「大三小10のやくそく」学習規律の確立
- 低学年・中学年・高学年に応じたプランを作成しプランの実行を月ごとに振り返る

道徳教育の指導の重点

- 感性や情操をはぐくむ体験的な活動との関連を図り、道徳の時間の充実を図る。
- 思いやり・親切、友情・信頼、助け合い、礼儀の指導に重点をおき、「やさしい子」の育成を図る。

生活科、総合的な学習の時間等の指導の重点

- 人とのかかわりを活かして自ら学ぶ活動を推進する。
- 地域と連携して指導の充実を図り、さらに人とのかかわりを通して地域への愛着心を育てる。
- 各学年の児童の興味・関心に基づいた課題解決能力を高める活動を展開する。
- 各学年とも、外国語活動に取り組み、コミュニケーション能力の育成を図る。

本校の考える「確かな学力」

- 学ぶ意欲
- 問題解決能力
- 表現する力
- コミュニケーション能力
- 知識・技能の定着
- 生活に活かす力

特別活動の指導の重点

- 学校生活をより明るく楽しくするために豊かな体験等有意義な活動になるように工夫する。
- 縦割り班活動による異学年交流や集会活動やふれあい活動を通して、友達と協力してよりよい学校生活を築こうとする意欲を高め、自主的・実践的態度の育成に努める。

生活指導の重点

- 全職員の共通理解で指導にのぞむ ○基本的な生活習慣の徹底 ○規範意識の向上
- 安全意識の向上 ○環境に配慮する子供を育てる

本校の授業改善の視点

指導内容・方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> * 問題解決的な学習や体験的な学習を重視し、児童の主体的な活動を引き出す指導法を工夫する。 * 地域を活かした教材を用いたり、外部講師を招聘したりする授業を多く取り入れる。 * 児童の習熟の程度や興味・関心等に応じた個別指導と少人数指導を推進する。 * 各教科を通して、自分の思いや考えを深め、適切に表現する能力の育成を図る。 * 生活に活かせる国語力の向上を図る。言葉や語彙の指導に重点を置く。 * 大田区漢字検定を活用し、漢字の習得を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> * 授業時間を確保し補助的な指導で基礎基本の定着、学ぶ意欲、表現力、思考力を培う。 * 読み聞かせ、読書活動を計画的に取り入れ、豊かな感性の育成や知識と読書習慣の定着を図る。 * 週ごとの指導計画による計画的な指導の完全実施と時数確保に努める。 * 補習教室(放課後・土曜日)を実施し学力の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> * 話し合い活動を中心とした道徳の授業を通して、豊かな社会性と人間性を育てるための授業づくりを校内研究として取り組む。各学年1回の研究授業と協議会を行い、授業力の向上を目指す。 * 特別支援教育に関する研修を実施し、ユニバーサルデザインに基づいた授業設計を推進する。 * 教育相談研修や校内指導体制の充実により、児童理解の深化を図り、学習支援能力の伸長を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> * 学習指導要領を踏まえ、年間指導計画に基づく、評価規準・評価計画の改善・活用を図る。 * 校内研究の地域教育連絡協議会への公開や学校公開等の参観を通して外部評価を受け、改善に活かす。 * 評価結果の公開や改善策について学校だよりやホームページ等で情報公開する。 	<ul style="list-style-type: none"> * 学校支援地域本部(スクールサポートおおさん)の協力を得て、地域の人材を活用した授業やわくわくスクールを推進する。 * 基本的な生活習慣や家庭での過ごし方(生活リズム・家庭学習等)の定着のために、より密接な家庭や地域との連携を図る。 * 区・PTA・地域行事等において児童の活動発表を積極的に推進する。 * 保・幼・小・中の情報交換や交流活動を深める。

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・授業改善や言語活動の工夫により、話す・聞く力、読む力がついてきている。
- ・読書活動の充実により、積極的に本を読む児童が増え、物語の内容を正しく読み取ることができるようになってきている。また、漢字を読む力もついてきている。
- ・国語辞典の使い方がよく理解できている。
- ・話を聞くことは、他教科の学習での取り組みでも力をつけて、自信をもってできる児童が増えてきている。
- ・学習効果測定の結果は前年度校内平均正答率より全ての観点で下回っているが、目標値に対しては
全て上回っている。

(2) 課題

- ・文字（平仮名、片仮名、漢字、ローマ字）は、読み書きの定着に留まらず、習得した文字が活用
できるようにする。
- ・指定された長さの文章を書くことや、意見と理由を区別して書く力を付けるための、効果的な指導を行う。
- ・文の構成（主語、述語、修飾語、指示語）を正しく理解し、活用できるようにする。
- ・資料と話し合い（文章）を関連付けて考える力を付ける。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和2年度結果	令和元年度結果	平成30年度結果
第4学年	目標値よりも低い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも低い		
第5学年	目標値と同程度 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも低い	目標値よりも低い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも低い	
第6学年	目標値より若干高い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも低い	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも高い 区平均正答率よりも高い	目標値よりも高い 全国平均正答率と同程度 区平均正答率よりも低い (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語
国語に関心をもって取り組む児童がいるが、苦手意識をもつ児童もいて目標値にはとどかない。	話し合いの内容を聞き取ることや、話し合いで大切なことを理解している。	文章を指定された長さで書くことや、自分の意見と理由を区別して書くことが難しい。	物語文では気持ちの読み取りができるが、説明文は、要点に注意して読み取ることが難しい。	漢字やローマ字を正しく書けない児童が多い。

② 高学年

関心・意欲・態度	話す・聞く	書く	読む	言語
学習内容が難しくなると、苦手意識をもつ児童が多くなる傾向にある。課題に前向きに取り組もうとしない児童がいる。	話し方の工夫を考へたり、話し手の意図を考へながら話の内容を聞き、メモを取ったりすることが難しい児童がいる。	文章を指定された長さで書くことや、段落を分けて書くことができない児童が少ない。	説明文の読解に課題がある。段落相互の関係を考へながら読むことや、文章の要点に注意して読み取ることが苦手な児童が多い。	文の構成（主語、述語、修飾語）や指示語について、正しく理解できていない児童がいる。漢字を書く力は定着している。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

関心・意欲・態度	話す・聞く	書く	読む	言語
「話す・聞く、書く、読む」の基本を繰り返し指導し、定着させる。身に付けさせたい力に応じて言語活動を工夫する。	相手や目的を考へて、必要な言葉が抜けないように話す力を付ける。集中して話を聞くための態度を身に付け、話の内容を理解する力を付ける。	目的や条件に応じて、求められていることを文章で表現できるようにする。文の書き方を、ICTを活用して分かりやすく丁寧に指導する。	司書教諭と連携して読書活動を行う。 教科書の文を丁寧に読み、言葉や表現に着目させながら読み方の基本を身に付ける。	MIMを活用し、拗音や促音・撥音の表記や助詞の使い方の定着を図る。 文字や漢字練習を丁寧に繰り返して、言葉や文にして使えるようにする。

(2) 中学年

関心・意欲・態度	話す・聞く	書く	読む	言語
ノートを丁寧に書かせる。身に付けさせたい力に応じて、言語活動を工夫する。読書活動を工夫、充実させる。	話し合いでは目的を意識させ、意見を出し合ったり、まとめたりできるようにする。練習や指導を繰り返す。	自分の意見と理由を区別するなど、文章構成を意識して書くことができるよう、書く過程を丁寧に指導する。	説明的な文章では語句や指示語に着目させ、段落の要点に注意して読み取らせる。	日常的に辞書を活用し、調べる習慣を身に付けさせる。 音読や漢字指導を含めた短文作りなどの活動を積み重ねる。

(3) 高学年

関心・意欲・態度	話す・聞く	書く	読む	言語
文字を丁寧に書くこと、声を出して音読することの指導を継続する。身に付けさせたい力に応じて言語活動を工夫する。	相手の意図を考へる活動を設定する。相手や目的を意識し、自分の考えが伝わるように、適切な言葉づかいで話させる。	段落構成を考へ、決められた文字数で文章を書かせる。また、自分の意見とその理由を区別して書けるようにする。	説明文の構成表を書いたり、段落の関係図を書いたりする活動を積極的に設定する。	言葉の学習を扱う小単元の学習内容を、掲示したり、適宜復習したりする。

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・5年・6年では、目標値よりを上回っている。
- ・前年度の課題であった「学年が上がるにつれて、社会的事象への関心・意欲・態度のポイントが下がっている。」については、改善することができた。

(2) 課題

- ・5年・6年で、全国値・区平均正答率を下回ってしまった。
- ・記述で答える問題（表現力）の正答率が、低い傾向にある。
- ・單元ごとの理解度のポイントに大きな差がある。
- ・5年・6年で、すべての領域別正答率が、昨年度に比べ、下回ってしまった。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和2年度結果	令和元年度結果	平成30年度結果
第4学年	目標値よりも若干低い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも低い		
第5学年	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも低い	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも低い	
第6学年	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも低い	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも高い 区平均正答率よりも高い	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも低い

(2) 分析（観点別）

① 中学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
問題や資料の読み取りを難しいと感じている児童の関心・意欲・態度のポイントが低い。用語の意味を理解できないこととグラフを正しく読めないことが要因として考えられる。	資料や写真と関連付けて考察する問題や地図をもとに考察して表現する問題は目標値を大きく下回っている。述で答える設問は無回答も多く、正答率が低い。	写真の様子を読み取り、地図に示された情報と照合することができていない。資料を複合的に見ることは、改善が必要だが、資料から読み取る問題は前年度より平均正答率が上げることができた。	地図記号の理解が十分ではない。いろいろな店の種類や特色についての理解が十分ではない。

② 高学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
関心・意欲・態度が昨年度よりわずかな数値だが、下落してしまった。学習内容が変化するにつれ、実感が伴わないこと、内容が難	区の平均値を上回ることができたが、全国の平均値には到達することができなかった。記述で答える設問は無回答が目立った。	複数の資料をもとに読み取る問題に対して前年度より正答率が下がっている。正しい資料を選択したり、グラフを読み取った	区や全国の平均値を下回る結果となった。昨年同様、單元ごとの理解度に大きな差がある。

しいことなどから、関心・意欲が薄れていく傾向がある。	学習したことを活用する設問に課題がある。	りすることに苦手意識をもつ児童が多い。	
----------------------------	----------------------	---------------------	--

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）中学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
見学・体験を伴った学習を多く取り入れ、社会科に対する興味・関心が持続するようにしていく。	問題解決的な学習を意図的・計画的に行う。学習問題を立て、予想を考える、学習問題に対する自分の考えをまとめる、という学習を繰り返して行って、考えて表現する力を伸ばす。	3年生のうちから、地図を活用した学習活動を積極的に取り入れたり、ICT機器を使用して資料を読み取ったりすることを、丁寧に指導する。また、その資料がどんな社会的事象につながっているのかを読み取らせていく。	地図記号や方位の知識について、繰り返し指導していく。3年生では、地域の地理的環境について調査活動を行い、場所によって違いがあることを理解させる。

（2）高学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
調べ学習を多く取り入れたり、写真資料や映像資料を活用したりするなどして、児童に身近な問題として捉えられるようにする。また、導入時に的確な資料を提示し、問題解決型学習へと展開させていく。その中で、興味・関心を持たせる。	単元を通して、問題解決的な学習を意図的・計画的に行う。また、自分で考えたことや活かしたいことなどを児童が主体的に考え、表現できる機会を多く設定していく。	資料を視覚的に捉えることができるように、拡大資料や映像などを多用し、読み取る視点を明確にしながら、丁寧な指導を行う。その上で、複数の資料から比較し、読み取れる社会的事象を明らかにしていく。地図帳なども活用する。	社会的事象に関する用語は丁寧に調べさせ、活用できるように指導し、国語辞典も活用する。学習したことをもとに、自分たちで問題を作って解き合ったり、新聞やリーフレットなどを作ったりして、知識を確かなものにしていく。

令和2年度 生活科 授業改善推進プラン

大田区立大森第三小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

（1）成果

- ・身近な植物を育てたり動物と触れ合ったりする活動を通して、生き物への関心が高まり、命を大切に作る気持ちが芽生えた。校庭の周辺や裏庭の自然環境を活かして、草花遊びや虫の観察、草花を育てるなどの活動ができた。
- ・友達や教職員、学校や地域を支えている人々と触れ合う機会、1・2年の交流の場の設定、夏休みや冬休み等を利用した家庭での手伝い活動等を設定することで、自分達は多くの人に支えられていること、家族や学校の一員であることに気付くことができた。また自分の成長にも気付くことができた。

（2）課題

- ・年間指導計画を毎年見直し、学校行事や地域の行事等と連携を図ったものにする。身近な植物や動物との触れ合いの活動を意図的に設定し、観察の方法等を提示して児童の気付きの質を高めていくための工夫が必要である。

2 授業改善のポイント（観点別）

関心・意欲・態度	思考・表現	気付き
学習に、継続して意欲的に取り組めるように、教材の提示のタイミングや方法を工夫する。身近な自然や植物、生き物との継続的な関わりの機会を増やす。	体験を通して感じたことや喜びを多様な形で表現できるように観点を明確にし、表現する方法を工夫させる。特に、ICTを活用した発表や振り返りを行う。また、友達同士で認め合える意見交流の時間を設ける。	友達や先生方、学校や地域を支えている人々と関わる活動、1・2年生の交流活動を設定したり、お手伝い活動をしたりして、自分が多くの人に支えられ、家族や学校、地域の一員であることに気付き、自分の成長に気付くことのできる活動を行う。 身近な自然や植物、生き物と継続して関わる中で、気付きを深めて、いけるようにする。

令和2年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立大森第三小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・4年は、全ての観点を目標値を上回ることができた。
- ・「数学的な考え方」の観点では、すべての学年が目標値を上回ることができた。

(2) 課題

- ・どの学年も区や全国の平均値を下回った。
- ・観点別に見ると「関心・意欲・態度」、基礎・活用で見ると「基礎」の正答率が他と比べて低い傾向がある。領域別では学年によって苦手とする領域が異なるが、特に4年は「図形」、5年は「量と測定」、6年は「数量関係」で目標値を大きく下回った。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和2年度結果	令和元年度結果	平成30年度結果
第4学年	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも低い		
第5学年	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも低い	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも低い (第4学年時)	
第6学年	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも低い	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも高い 区平均正答率と同程度 (第5学年時)	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも高い 区平均正答率よりも低い (第4学年時)

(2) 分析(観点別)

① 中学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
目標値に対し5ポイント高い結果となった。概ね良好であるが、既習事項の学習内容であっても、やり方を忘れていたり、計算ミスをしたりが意欲の低下につながっている。	目標値に対し約3ポイント高い結果となった。円や球を使った問題、正三角形の性質を使った問題は比較的正答率が低い。	目標値に対し約1ポイント高い結果となった。四則計算の技能に差がある。特に繰り下がりのあるひき算や、あまりのあるわり算、かけ算の筆算などについて苦手意識が見られる。	目標値に対し5ポイント高い結果となったが、円の直径について問われる問題で、目標値を大きく下回った。基本的な知識の定着が不十分であった。

② 高学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
目標値に対し1～3ポイント低い結果となった。既習事項の定着が不十分のため理解が難しく、関心・意欲・態度を下げている。	目標値に対し3ポイント前後高い結果となった。角度や面積の見当をつけたり、グラフや表のデータから問題を解決したりすることを苦手としている。	目標値とほぼ同程度の結果となったが、小数や分数の計算の正答率が低く、基本的な技能が十分に身につけていない。	目標値に対し5年は2ポイント低く、6年は3ポイント高い結果となった。特に5年は分数、6年は倍数・約数に対する理解が不十分であった。

3 授業改善のポイント(観点別)

(1) 低学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
導入場面で、実生活に即した場面を設定したり、算数的な活動の場面を多く取り入れたりする等、児童の興味・関心を高める工夫をしていく。また、「分かる」「できる」喜びや楽しさを多く経験させられるように努める。	問題解決的な学習を意図的、計画的に取り入れる。図をかいたり具体物や半具体物を操作したりしながら式を立てるようにし、どう考えたのか伝えられるようにしていく。また、筆算の仕方等について、形式的な手続きの理解に偏らないよう、操作的活動を取り入れながら思考力を深めていく。	中学年の学習にスムーズに入れるようにするため、1年では10の分解、繰り上がりのたし算の筆算、繰り下がりのひき算の筆算が確実にできるように、2年ではかけ算九九を確実に覚えられるように、日常的に計算練習を行う。苦手な児童には個別指導や補習等で支援していく。	数量関係の把握が苦手である。具体物を操作することで、数量に関するイメージをもたせ、より理解しやすいように指導をしていく。ICTも効果的に活用しつつ、実物に触れて体験する活動も大切にすることで、量感覚の素地を養うようにする。

(2) 中学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
既習事項の確実な定着を図ることが、問題解決をする過程において、関心・意欲を継続させると考える。既習事項の復習を丁寧に、繰り返して行くことで、自信を育み、意欲の向上を図る。また、デジタル教材等を有効活用する	問題解決的な学習を通し、対話的学習を多く取り入れ、複数の考え方や解法に触れることで、児童が主体的に考えをもてるようにしていく。図や言葉を用いて自分の考えを表現する機会を多く設定することで、表現力を育てていく。	高学年の学習にスムーズに入れるようにするため、四則計算については短時間でも日常的に計算練習繰り返すことで、定着を図る。筆算等の指導では、丁寧に見やすく書くことを身につけさせることで、技能の確実さと定着を図る。コ	「量と測定」の単位換算についての理解が不十分であったため、定期的に復習を行う。およその数量を基準をもって推察ができるように、具体物の操作をしながら学習できるようにする。「円」については単元の指導後も定期的復習す

ことで、関心を高めていく。		ンパスや分度器を扱う場面を定期的に設定し、扱いに慣れるようにする。	ることで、理解の定着を図る。
---------------	--	-----------------------------------	----------------

(3) 高学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
新単元にスムーズに入れるように、導入で既習事項の復習を丁寧に行うようにする。また、計算の仕方が身に付いていないことが負担となり、意欲を下げる原因となっているので、基礎的な反復練習を継続することでその原因の軽減を図る。	図や数直線に表す指導を繰り返し行い、表現力を伸ばす。そのために教えあったり、考え方を共有したりする活動を設定する。また、表やグラフから読み取ったことを問題解決に活用したり、既習事項を応用して用いて課題に取り組んだりする機会を増やす。	計算のきまりを含めた四則計算の定期的な復習を徹底する。計算や作図の精度を高めるように、課題のある児童への個別指導を丁寧にすると共に、日常的な宿題の内容の精選、補習の充実等に努める。コンパスや分度器の扱いに慣れさせる場面を学期に1回以上設定する。ワークテストや単元末のまとめ等での見直しや解き直しの意識も高めていく。	長さ、面積、体積などの単位からの量感をイメージできるように繰り返し指導し、ICTの活用など、提示方法を工夫する。特に図形に関しては、既習学年の内容も含めて定期的に取り組むことで、知識や理解の定着を図る。

令和2年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立大森第三小学校

(1) 成果

- ・「関心・意欲・態度」は比較的正答率が高い。
- ・第5学年の「思考・判断・表現」は目標値に達した。

(2) 課題

- ・全ての学年で、目標値・区平均・全国平均のすべての項目で、校内平均正答率が下回った。
- ・「知識」、「技能」についての正答率が低い。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和2年度結果	令和元年度結果	平成30年度結果
第4学年	目標値よりも低い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも低い		
第5学年	目標値よりも低い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも低い	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも高い (第4学年時)	
第6学年	目標値よりも低い 全国平均正答率よりも	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも	目標値よりも高い 全国平均正答率と同程

	低い 区平均正答率よりも低い	低い 区平均正答率よりも高い (第5学年時)	度 区平均正答率よりも高い (第4学年時)
--	-------------------	------------------------------	-----------------------------

(2) 分析 (観点別)

① 中学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
概ね良好。	昆虫の生態、磁石や電気などの性質について、見通しをもって実験や観察をし、結果から分かったことを考えることに課題がある。	概ね良好。	植物や昆虫の生態についての知識、またその観察についての知識が定着していない。

② 高学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
概ね良好。	実験結果をもとに、考察を進めていく上で、自分の言葉で表現することに課題がある。また、いくつかの事象を関連付けて考える問題の正答率が低い。	どの条件を揃えて実験を行うか等の、実験に関する技能が身につけていない。	5学年は、「物質・エネルギー」の「電気のはたらき」についての正答率が低い。第6学年「生命・地球」の「流れる水のはたらき」についての正答率が低い。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 中学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
児童にとって、見通しがもてるような学習の展開を工夫し、単元の導入などでは適切な資料を用意していく。体験的な学習をなるべく多く取り入れるようにするなど、自分事として考えられるようにする工夫が必要である。	予想や考察を自分で考え、表現する活動を充実させる必要がある。文章だけでなく、絵や図、表なども必要に応じて用いながら、ノートを書かせたり、自分の考えを整理し、友達と伝え合ったりする機会を設けたい。また、このような活動に意欲をもって取り組めるように、児童が問題意識をしっかりと持てるような導入の工夫も必要である。	観察を行う前に、観察の方法や、注意点についてしっかりと指導し、知識として定着させる必要がある。	重要語句や資料を掲示し、定着を図る。普段の生活や自分の体験と結びつけ、実感を伴った理解を目指す。自然事象について、比較したり関連付けたりしながら、理解を深められるようにする。

(2) 高学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
単元の導入時には、実際の生活と関連付け、観察や実験等の直接体験を重視した内容や学習の展開をしていく。	予想を立てる際は、生活経験から根拠のある表現をさせるようにする。条件についての理解(変えるものと変え	実験器具の名前、使い方を正しく理解させる。実験は少人数で行わせ、実験の手順や条件を明確にさせる。ま	重要語句や資料を掲示し、定着を図る。実感を伴った理解を目指すし、日常生活との関連を示したり、考えさせたりする。

	ないもの)を深める。実験から分かったことをまとめ、そこから分かったことや考えたことを表現する時間を十分にとる。	た、一人一人が役割を担い、責任感をもって参加させる。観察・実験の方法を考え、実験結果の見通しをもつことができるようにする。	写真や映像等、視覚的に科学的事象を捉えられる、効果的な資料や教材を活用していく。
--	---	---	--

令和2年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立大森第三小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・楽器の音色や、拍、その音楽のもつ気分を感じ取る活動に意欲的に取り組む児童が増えた。
- ・音楽の表現の工夫に必要な基礎的な知識（リズム、音の高さ、拍子記号や強弱記号）について理解できる児童が増えた。

(2) 課題

- ・聴きあう力が十分ではない。
- ・拍を感じながら演奏することが難しい児童や、正しい音程が取りづらい児童が数名いる。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	技能	鑑賞
身体を動かして拍を感じることで、音楽を楽しんだり、興味・関心をもったりできるように活動に工夫をする。	音の高さや音色、拍のまとまりを感じ取り、音楽づくりの楽しさに気づけるよう、音遊びや手遊びなどを学習に取り入れる。	鍵盤ハーモニカの正しい運指やタンギングができるように一人ずつ演奏する場面を設け、丁寧に指導する。	音の種類や音色の違いを感じ取り、特徴や面白さに気付けるよう、板書やワークシート、発問を工夫する。

(2) 中学年

関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	技能	鑑賞
めあてを明確にし、それに沿った教材選びや、発問計画をする。題材の導入では全児童にとって分かりやすく楽しい活動の工夫をする。	表現の工夫に必要な音楽的知識の定着を図る。また、いろいろな表現の仕方を試し、よりよい表現の工夫を、児童が考えられるよう発問を工夫する。	演奏する時には、姿勢に気を付けて、よりよい歌声や音色を響かせられるよう、常に意識づけをする。技能に応じて、スモールステップ方式で個別に指導もしていく	鑑賞時には、何を感じ取るのか明確にして、その音楽の面白さに気付けるようにする。また表現の内容とも関連づけて、学習したことが実感できるようにする。

(3) 高学年

関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	技能	鑑賞
児童の個人差をなくすために、共通事項にある音楽的知識については、常時活動を通して、くりかえし知識の定着を図る	いろいろな表現の仕方を試し、よりよい表現の工夫を、児童が考えられるよう発問を工夫する。	常時活動では、一人一人の歌声を聞き取り、特に声変わりにさしかかった時期には丁寧に声掛けをする。器楽では、技能別の課題を用意し、児童の実態に応じた内容を工夫する。	豊かな感性の育成に向けて、音楽から感じ取った考えを、他の友達と交流をし、考えを深められる場の工夫を図る。

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・意欲的に取り組み、伸び伸びと楽しみながら取り組む児童が増えてきた。
- ・様々な材料に出会い、積極的に自分の色、形、イメージを表現できる児童が多くなった。

(2) 課題

- ・意欲的に活動する児童が多いが、反面落ち着きに欠ける児童もみられる。
- ・材料や用具の整備や児童が活動しやすい環境を整える。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞
児童が楽しみながら、自分の感覚や活動を基に形や色などをとらえ、イメージをもてるようにする。	児童が形や色をとらえ、さらに自分のイメージを大切にしながら発想できる素材や材料を考え、活動できるようにする。	基本的な用具の扱いが身に付き、児童が手や体全体を働かせて扱えるように材料や用具を考え、授業の計画を立てる。	自分や友達の作品のよさに気付けるように、ICTを活用するなど、展示方法を工夫する等環境を整備する。

(2) 中学年

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞
楽しみながら活動できる児童が多い。様々な材料や用具の体験を行い、さらに楽しんで活動できるようにする。	様々な材料や表現方法と出会い、豊かな発想をし、形や色などの感じを基に、自分のイメージをもって表すことができるよう児童の発想の広がりに対応する。	児童が表したいことを大切にして、児童が取り組みやすい材料や用具を準備し、それらを児童が進んで使い、表現を工夫できるようにする。	作品を作る過程で、自然と友達の作品や身近な美術作品を鑑賞し、よさや面白さを感じ取る場を大切にす

(3) 高学年

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞
個性の強い児童もこだわりをもって自分の表現ができるように授業を設定し、それまでの材料や用具の体験、自分の見方や感じ方を大切にし、さらに自分らしい表現を進んでできるようにする。	形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもち、様々なテーマや表現方法、材料などから児童が発想や構想をできるように、場の設定や支援の方法など工夫していく。	児童が自分の表したいことに合わせて、児童が使いたい材料や必要な用具の特徴を生かし、工夫して表せるように環境を整える。	自分たちの作品や親しみのある作品などに会い、よさや美しさに気づき、感じ取れるようにする。

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・個別に指導をすることで、基礎的・基本的な技能を身に付けることができる。
- ・家庭科学習ノートを活用し、知識の定着が図れている。

- ・ 電子黒板を活用することで、課題に対して興味をもって取り組むことができている。
- ・ 既習事項をふり返ることで、学習内容の連続性や、日常生活内で活用していることに気づけるようになった。
- ・ 実物を見せることで、製作に対する意欲・関心をよりひきつけることができた。

(2) 課題

- ・ 実技の習得に差がある。
- ・ 以前に学習した内容を忘れていることが多い。
- ・ 生活経験にむらがあり、理解と具現化に時間がかかることがある。
- ・ 向上心を持たせることが難しい。

2 授業改善のポイント（観点別）

関心・意欲・態度	創意工夫	技能	知識・理解
<p>児童の普段の生活から問題意識をもたせ、課題解決に向けた学習を行う。</p> <p>電子黒板を活用して指示・内容を明確にし、意欲の継続を図る。</p> <p>映像や動画を見せることで、学習内容の汎用性を児童に伝える。</p>	<p>手本や他の児童の作品を提示することで、多様な考えや工夫に触れさせる。</p> <p>製作準備として、模型を作ることで完成品を想像し、計画を立てやすくする。</p>	<p>実習の際は、道具の扱い方の基礎の学習に重点を置き、必要な技能を習得させるとともに、既習事項の反復を行う。</p> <p>個別指導を通して、基礎基本の定着を図る。</p>	<p>家庭科学習ノートを有効に活用する。</p> <p>継続的に反復して学習することで、理解を確かなものにする。</p> <p>家庭科用語の定着を図るため、用語の確認を丁寧に行う。</p>

令和2年度 体育科 授業改善推進プラン

大田区立大森第三小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ 「ハッスルタイム」や体育集会を通して、体を動かす楽しさや喜びを味わうことができた。
- ・ 縦割り班での活動を取り入れたことで、どの学年も意欲的に運動を行えるようになった。
- ・ 「ハッスルタイム」を通して、持久力が全体的に高くなってきている。
- ・ 自分に合った運動や場を選んだり、工夫したりできるような学習カードを活用することで、少しずつ自分にあった課題を設定し、解決できるようになってきた。
- ・ タブレットなどを活用し、自分の動きを確認することで、技能向上を図ることができた。

(2) 課題

- ・ 「早寝、早起き、朝ご飯週間」を実施するものの、習慣化ができていない。
- ・ 例年、投力に課題がある。「投げる」ことにつながる効果的な教材・教具の開発・活用などを行っていく。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
<p>単元の導入では、これから学習していく内容の概要が視覚的に分かるような学習資料を用意する。</p> <p>簡単なゲームや遊びを</p>	<p>自分に合った動きや遊びを選んだり、工夫したりできるように、学習カードを効果的に活用していく。</p> <p>友達の良いところ、真</p>	<p>準備運動の中に、リズム遊びや鬼遊びなどを取り入れ、楽しみながら、身のこなし方や様々な運動感覚を養っていく。</p>	<p>各領域の遊びの特性に応じ用具器具の使い方やルールを知り、安全に行えるようにしていく。</p>

導入時に取り入れ、楽しみながら学習を進められるような授業を展開していく。	似したいところを発表し合える機会を意図的・計画的に設ける。児童に「どこに気を付けて行ったか。」等、コツを発表させる機会を多く設ける。	持久力を養うために、体育朝会やハッスルタイムと連携して、鬼あそびなどの走る運動を行うようにする。	
--------------------------------------	--	--	--

(2) 中学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
単元の導入では、これから学習していく内容の概要が見えるような学習資料を用意し、「何を学ぶのだろう」と関心が高まるような授業を展開していく。 「自分はこう考える」「自分にできること」等、自分のこととして捉えられるような学習活動を行っていく。また、友達同士で認め合える環境を整えていく。	自分に合った動きや運動を選んだり、工夫したりできるように、学習カードを効果的に活用していく。 友達の良いところ、真似したいところを発表し合える機会を意図的・計画的に設ける。 友達や教師からアドバイスしてもらうなど、自分から聞いたりする機会を設ける。また、自分の言葉で発表したり記録したりしておく。	準備運動の中に、補助運動を取り入れ、年間を通して、様々な運動感覚を養っていく。 動きや技の技能ポイントが分かるような学習資料を用意する。 持久力を養うために、体育朝会やハッスルタイムと連携したり、鬼ごっこなどの走る運動を行ったりする。 「投げる」ことにつながる効果的な教材・教具の開発・活用を行う。	「早寝、早起き、朝ご飯週間」の実施に伴い、家庭の協力のもと、習慣化を図っていく。「毎日の生活と健康」「育ちゆくからだわたし」の単元を中心に指導し、健康に対する知識・理解を深めていく。 各領域の運動の特性に応じ用具器具の使い方やルールを知り、安全に行えるようにしていく。

(3) 高学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
単元の導入では、これから学習していく内容の概要が見えるような学習資料を用意する。毎時間、自分のめあてを設定し、見通しをもって学習活動に取り組めるようにしていく。 「自分はこう考える」「自分にできること」など、自分事として考えることができるような学習活動を行っていく。また、友達同士で認め合いアドバイスし合える環境を作り、課題をもって取り組めるようにしていく。	自分に合った運動や場を選んだり、工夫したりできるように、学習カードを効果的に活用していく。 友達の良いところ、真似したいところを発表し合える機会を意図的・計画的に設ける。 自分やグループの特徴に応じた動き方を知り、その特徴に応じた取り組み方や作戦等を考えるようにしていく。 単元の終わりには、達成状況を振り返るようにする。	準備運動の中に、補助運動を取り入れ、年間を通して、様々な運動感覚を養っていく。 動きや技の技能ポイントが分かるような学習資料を用意する。 「投げる」ことにつながる効果的な教材・教具の開発・活用を行う。 大田区小学生駅伝大会に向けて、持久力を養うために、体育朝会やハッスルタイムと連携して持久走を行う。授業にも取り入れていく。	「早寝、早起き、朝ご飯週間」の実施に伴い、家庭の協力のもと、習慣化を図っていく。「心の健康」「けがの防止・病気の予防」の単元を中心に指導し、健康に対する知識・理解を深めていく。 近隣の大学に「がん教育」の講義を依頼し、講師を招く。 各領域の運動の特性に応じ用具器具の使い方やルールを知り、安全に運動が行えるようにしていく。